



佐渡市宿根木(新潟県)

(1) 保存地区の概要

地区名	佐渡市宿根木
種別	港町
面積	約28.5ヘクタール
選定年月日	平成3年4月30日

特徴 佐渡市宿根木伝統的建造物群保存地区は、佐渡島小木岬南端近くに位置し、江戸時代に北前船稼業で繁栄した小さな港町である。集落は、約1haの狭い谷内に主屋、納屋、土蔵など200棟ほどが軒を連ねる。外観の簡素さと内部の漆塗りの華やかな空間との対比が特徴的である。伝統的な建造物群が高度な都市的空間を構成し、周囲の自然環境とともに優れた歴史的風致を形成している。

(2) 保存地区のあゆみ

昭和43年度(1968)	民俗学者の宮本常一氏らにより、集落調査が盛んに行われる
昭和47年度(1972)	閉校した宿根木小学校校舎を利用した「佐渡国小木民俗博物館」が開館
昭和55年度(1980)	小木町宿根木伝統的建造物群保存対策調査を実施(東京大学 稲垣栄三研究室)
平成2年度(1990)	公開民家「清九郎」、「金子屋」が復原される
平成3年度(1991)	『重要伝統的建造物群保存地区』に選定
平成9年度(1997)	防災計画を策定
平成10年度(1998)	実物大の千石船「白山丸」が復原される
平成16年度から	活動を継続する地元中学校の「宿根木観光ボランティア部」が都市景観大賞(景観教育・普及啓発部門)を受賞する
平成23年度(2011)	
平成24年度(2012)	公開民家「三角家」が一般公開される
平成26年度(2014)	JR東日本のCMで宿根木が紹介される
平成27年度(2015)	宿根木公会堂の耐震補強改修工事が竣工



保存地区(拡大図)



保存地区図



景観地区図



位置図

(3) 保存地区の保存と整備

■ 修理経過 (1991～2019)

29年間で105棟の保存修理事業を実施

これまでの修理数・・・88件(約72%)

これまでの修景数・・・17件(約13%)

伝統的建造物の約7割が修理され、歴史的な風致が向上している。

■ 主な事業

- 平成28年度 修理事業4件
修景事業1件
防災事業1件(法面保護)
- 平成29年度 修理事業5件
防災事業1件(法面保護)
- 平成30年度 修理事業3件
修景事業1件
防災事業2件(法面保護他)
- 令和 1年度 修理事業4件
修景事業1件
防災事業1件(法面保護)

■ 向上する歴史的風致



修理事業



修景事業



防災事業

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 伝統的建造物の活用とまちづくり

重要伝統的建造物群保存地区選定以後、見学等が可能な公開施設等が増加した。平成24年には、公開民家4棟(清九郎・金子屋・三角家・博物館)の共通入館券を発行し、見学者の利便性向上に努めている。歴史的な町並みを創出する宿根木を訪れる観光客は年々増加しており、メディア露出等も加わり、集落活性化の機運が高まっている。

また、観光客の受入対応と住民の良好な住環境づくりを目的に新潟県と佐渡市では、県道改修工事(歩道整備及び案内サイン設置)等を進めている。

■活用意識の変化

	集落世帯	営業店舗	宿泊施設	公開家屋	在外件数	取材件数
平成2年	50	4	4	1	2	1
平成28年	44	4	6	6	6	8
年比	-6	±0	+2	+5	+4	+7



佐渡国小木民俗博物館
昭和47年開館



公開民家「清九郎」
平成3年公開



公開民家「金子屋」
平成3年公開



公開民家「三角家」
平成24年公開



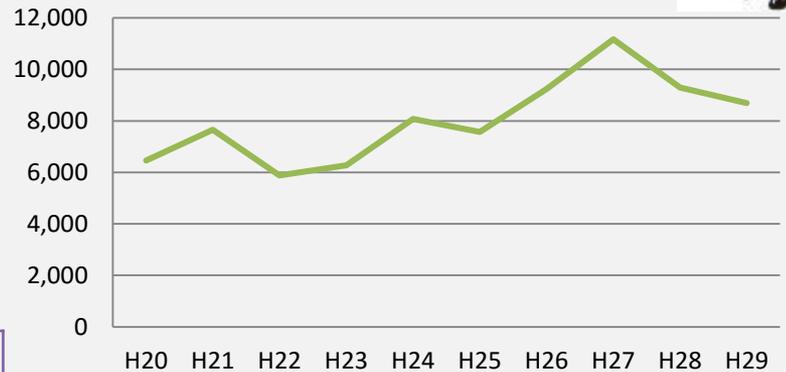
中島土蔵
平成24年公開



宿根木公会堂
平成27年公開

■賑わいの創出

公開民家「清九郎」の入館者数 推移



公開民家「清九郎」



佐渡国小木民俗博物館で行われる
白山丸祭り



歩行者の安全を確保するための
歩道整備工事

その2 歴史を活かした取り組み

平成22年 世界文化遺産暫定候補への記載

平成23年 世界農業遺産(ジ阿斯)の認定

平成25年 日本ジオパークの認定

平成29年 日本遺産の認定

佐渡市では、豊かな大地の遺産、トキや天然杉などの恵まれた自然、人々が育んだ伝統文化を島の宝と捉え、これらの保護に取り組んでいる。

平成29年5月には日本遺産「荒海を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の認定を新たに受け、宿根木のほか、寄港地である佐渡市小木町の歴史遺産(鎮守である木崎神社、湊を描いた絵図、船乗りが奉納した船絵馬等)を含め、千石船で繁栄した往時の歴史的景観の保全に努めている。



地元中学生による観光ガイド



住民による観光ガイド



地質を学ぶジオパークガイド



住民による青年芝居



地区を守る放水訓練



住民による木羽へぎ作業

(5) 住民等の取組

●「集落ガイド」

集落では、増加する観光客の受入対策として、平成26年度に観光案内所を設置した。地元住民による案内ガイドのほか、ジオパークガイドや地元中学生による観光ガイドなど、多様な主体により気持ちよく集落を訪れていただくための「おもてなし」が行われている。

●地域住民の声

・重伝建地区に選定されなければ、今のように集落を維持していくことはできなかった気がしている。コツコツと小さな取り組みを続けてきたことが、結果として今の成果に繋がっている。先人たちが築き上げた歴史を守り、後世に引き継ぐ役目を担いたい。(保存会会長)

・集落では石置屋根の復原に取り組んでおり、材料の一つ一つは住民の手によって作られている。これからも、ものづくりへの想いを絶やさずにいたい。世代の垣根を越えて、親戚のように接する人間関係を築きながら、集落で過ごす日々を楽しみたい。(宿根木こば屋代表)



千石船の面影を辿る「千石船の里探訪マップ」